

6-2 事業活動報告交流会の実施

公益事業に対する理解の普及と協力を得ることを目的に、全国の大学・短期学の関係者を対象に12月3日に関西・中四国地域(会場:関西大学)、12月6日に九州地域(会場:福岡大学)、12月10日に東北地域(会場:東北工業大学)、12月11日に北海道地域(会場:北海学園大学)、12月18日東海地域(会場:静岡産業大学)にて、向殿会長、事務局長が出向して実施した。5地域で27大学、197名が参加し、その内、非加盟校は6大学で10名(5%)であった。教員の参加は、53名(27%)、職員144名(73%)で教員は昨年度より22名増加した。

以下に、参加教員の約4割、参加職員の約3割によるアンケート結果の概要を報告する。

(1) 事業活動に関する感想

教員、職員とも多くの事業活動を展開しており、非常に参考になったとの感想が寄せられた。その中で幾つかを紹介する。

① 教員からの感想

- ※ 「大学が危惧されている教育現状と ICT、クラウドを用いた新しい授業の形を示していただき、学内で今後の取り組みを加速させる必要があると考えます。破壊的創造を大学内で起こすことの難しさを感じつつ、新たな取り組みを準備していく必要を感じた」
- ※ 「最近の AI 導入に伴う社会の中で文部科学省などがどのような施策を考えているのかよく分かり、とても参考になった」
- ※ 「改正著作権法に関する課題の説明が大変参考になった。学生の個人情報はどう扱うか、成績などデータとしてそれを指導に使う場合、注意点が良く分かった」
- ※ 「非常に興味深い役に立つ内容の活動が多いと思う」

② 職員からの感想

- ※ 「AI、IoT、ビッグデータ、ロボットなどの技術革新により、社会や産業のイノベーションが進んでいる現状を詳しく知ることができた。大学教育の有り様について考えさせられ、ヒントをたくさん紹介いただいた」
- ※ 「遠隔参加等の機会が増えると参加しやすくなるので、可能な場合には案内いただきたい」
- ※ 「多様で幅広い活動をされていることがよく分かる。時代の求めるものに対して事業活動されていることもありがたいことだと思った」
- ※ 「教育のオープンイノベーションの促進が不可欠であるという説明とその促進のための協会の取り組みが大変参考になる」

(2) 報告交流会の運営に関する要望・感想

① 教員

- ※ 「ネット社会の進化とはいえ、地方の大学にとってはこういった機会は貴重ですので毎年継続いただきたい」
- ※ 「参加人数が少ないと今後縮小されないか心配ですが、継続していただきたい」
- ※ 「地方の大学にとって中央の動きを知ることができる重要な機会なので、さらに拡充していくことが期待される」

② 職員

- ※ 「AI時代から大学教育のイノベーションを考える説明は、私情協の考えが理解でき有益であった。協会の方向性と展開例がとてもよく分かった」
- ※ 「非常に密度の濃い内容でしたので、他大学からの参加が少ないのはもったいないと思います。周辺地域からより多くの参加者が集まるような仕掛けが必要と思う」などであった